

[安全作業]

1. 作業の服装と防護具

図のような各種防護具を着用しましょう。
また、使用後は十分に清掃してください。

帽子

保護メガネ

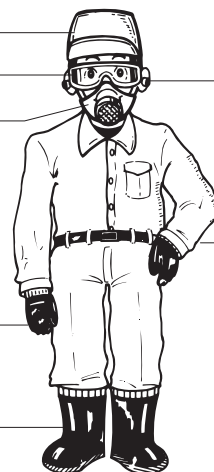
保護マスク

耳栓
(騒音作業)

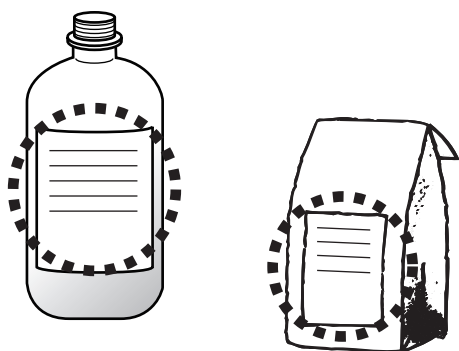
保護衣
(袖口スッキリ)

保護手袋

作業靴
(長靴・地下足袋)



薬剤の取扱い説明をよく読む



2. 薬剤について

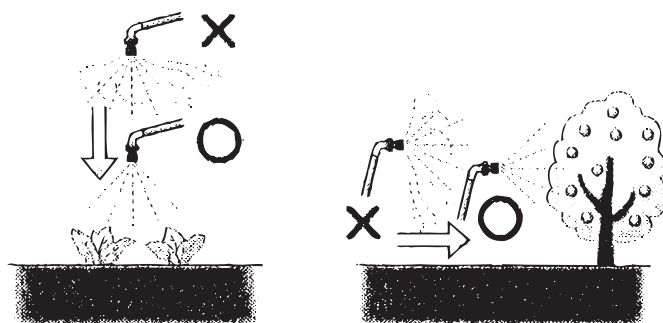
・使用する薬剤の取扱い説明をよく読んで、用法、用量、使用上の注意を守って正しくご使用ください。
散布量や薬剤の種類を間違えると、薬害を起こします。
・有機溶剤を含む薬剤のご使用はお控えください。有機溶剤はパッキン、ホース類を傷めやすい薬剤です。
やむを得ずご使用される場合は、使用後に必ず清水で十分に洗浄してください。洗浄が不十分ですとパッキン、ホース類が損傷し、機械故障の原因になります。

3. 散布の注意

散布しようとする作物以外に農薬がドリフトしないように細心の注意をして散布しましょう。

- ①風の弱い時に散布します。
- ②散布の位置や方向に注意します。
- ③適正なノズルを使い適正な圧力で散布します。
- ④適正な量を散布します。
- ⑤園地の端部では特に注意します。

作物の近くから散布する



風に注意!

4. 健康維持への配慮

- ・散布作業は薬害を起こさぬよう、下記に注意してください。
- ①風上から風下に向かって作業する。
 - ②朝夕の涼しい時間帯に散布する。気温が高いと薬剤の蒸気を吸込む恐れがあります。
 - ③タバコや手についた薬剤が口から入らぬよう、喫煙・飲食は控える。
- ・作業が終わったら、全身をよく洗い、うがいをしてください。

作業後は清潔に!



[取扱操作]

5. 使用前のチェック

[ノズルの組立]

右図の順で接続し、噴霧機の吐出口に噴霧ホースを接続します。接続部のパッキンに傷や変形が無いか確認してください。

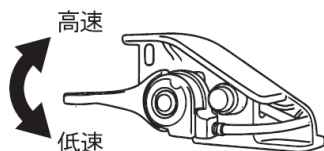
[ネジの緩み、バンドの点検]

各部ネジの緩み、背負バンドに損傷(切れやホツレ)がないか点検します。損傷があった場合、背負バンドを交換してください。

[燃料の確認]

燃料は無鉛ガソリンに市販の 2 サイクル専用オイル※1を右記の割合で混合し、使用してください。

※4サイクルエンジンは、取扱説明書を参照してください。



(形式)	(スロットルレバー位置)
渦流(カスケード)式	低速(※)～高速
ユニフロー(ピストン)式	高速

※低速運転を長時間続けると、マフラー詰まりの原因になります。時々高速にして使用してください。

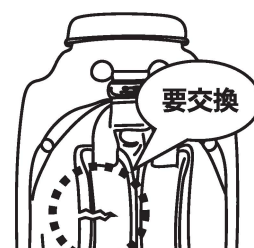
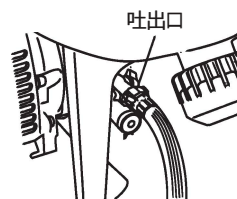
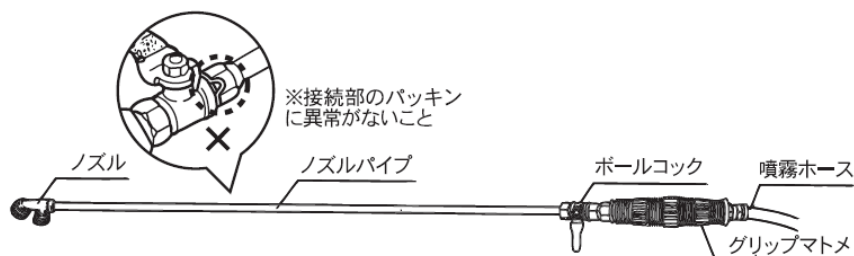
7. 作業後のチェック

[本体部]—薬剤タンク、ホースなど

- ・タンク内を清水で洗い流し、ストレーナを洗浄します。
- ・薬剤タンク内に約1Lの清水を入れポンプを回し、水がなくなるまでノズルから散布します。
- ・噴霧ホースを外し、ポンプとホース内の水を抜きます。ポンプの水を抜かないと冬期凍結により破損します。

[エンジン部]

次回の使用まで10日間以上ある場合は、タンク・キャブレタ内の燃料を抜き取ってください。エンジン各部にゴミが詰まっていると、エンジン不調の原因になります。必要に応じ清掃してください。



■燃料混合表

ガソリン	2サイクル専用オイル	
	50 : 1 (FD, FC 級)	25 : 1 (FB 級)
1 L	20 mL	40 mL

※1 : 2サイクル専用オイルはJASO性能分類によりFB、FC、FDの3種に分類され、容器に表示されています。(FAグレードは現在廃止されています)

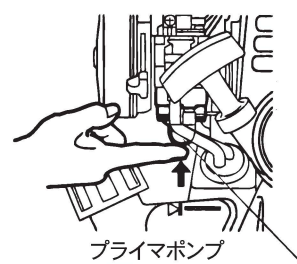
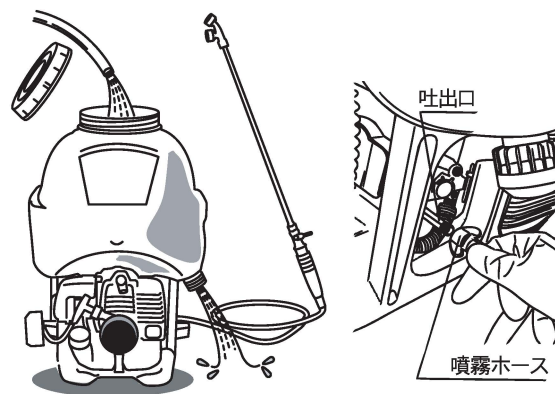
6. エンジン回転とポンプの取扱い

[エンジン回転]

作業時のエンジン回転は、左記を目安にしてください。

[ポンプについて]

薬液が無くなったら速やかにエンジンを停止してください。空運転を続けるとポンプが破損します。



必ず取扱説明書をお読みになってからご使用ください。